



皆様、厳しい暑さが続きますが、いかがが過ごしてでしょうか。お互いに体調管理に気を付けて、この夏を元気に乗りきっていきましょう。

夏一番の奄美、8月には中部地方と鹿児島・奄美を結ぶ航空路線も開設され、今年も多くの観光客・帰省客がやってくることでしょう。今夏の世界自然遺産登録は見送りとなりましたが、最近ではテレビ等で奄美が特集されることも多く、全国から熱い注目を浴びていることを実感します。その

ような中で、大河ドラマ『西郷どん』では苦難の黒糖政策の歴史が描かれ、また別の番組では一文字姓に秘められた歴史的経緯や奄美の人々の思いが描き出されました。奄美のことを深く理解していただくきっかけになったのではと思います。

自然だけでなく、歴史も文化も宝なのだ！先人たちの歩みに誇りをもって、地元のことを学び発信していく時代の到来に感謝して、皆様とともに活動して参ります。

安田そうへい



そうへいの議会トピックス

直近の議会での決定事項や進捗状況についてお知らせします

1 平成30年第2回定例会（6月定例会）における主な議案について

●30年度一般会計補正予算第1号（合計4億3444万円の増額）⇒結果、一般会計総額は342億5454万円。その主な内容は、

①都市再生整備事業2億8690万円：国の「地方再生モデル都市」認定により、1億2100万円の交付金を受けて実施。奄美本通り・銀座通りの修景事業や井根公園の休憩施設整備など。また、街中にぎわい創出のためのベビーカー・シニアカー貸し出しやオープンカフェ出店についての事業調査も行う予定。

②名瀬・住用地区学校給食センター人件費2380万円：給食センターの9月稼働開始に伴う、調理員・配送員・配送補助員などの賃金・共済費。

③食肉処理施設整備事業1960万円：運営者である大島地区衛生組合より業務を受託し、基本設計・測量設計・地質調査などを実施。事業費のうち、奄美市も1807万円を負担している。

④特別支援教育支援員賃金・スクールソーシャルワーカー謝金合計237万円：賃金・報酬の増額改定によるもの。

⑤体育施設管理費163万円：名瀬三儀山運動公園テニスコート夜間照明、住用町奄美体験交流館ホール天井、笠利町太陽が丘陵上競技場タイム計測台の補

修費用。

●国民健康保険事業特別会計補正予算(専決処分)

●子ども医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例：県の制度変更に伴い、奄美市も導入。経済的理由で受診を控えることによる症状の重篤化を防ぐため、子ども医療費の助成について、住民税非課税世帯の未就学児を対象に、医療機関窓口での自己負担金をなくす。

●工事請負契約の変更契約の締結：名瀬本庁舎について、本体建築工事に移動棚設置を追加、資材高騰に伴うインフレスライド条項も適用。また、電気設備工事に議会システム構築工事を追加。

●教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度2分の1復元、複式学級解消を図るための、来年度政府予算に係る意見書採択に関する請願 ⇒ 採択

●受動喫煙防止の展開を求める請願 ⇒ 採択

●名瀬・住用地区大規模給食センター化の市民説明会を求める陳情 ⇒ 不採択

●教育長の選任 ⇒ 要田憲雄教育長が再任

2 ますます議会活性化！

年度ごとに設置される「政策立案推進会議」、早速5月より始動しています。今年度どのようなテーマに取り組むか、これから選定作業に入っていきます。また、議会活性化検討委員会も、さらなる活性化に向けて鋭意活動していきます！

MINIKORUM

しっかり報告



前

号からの続きとなりますが、奄振交付金事業として本年度創設されたこの推進枠、奄美市は観光に関する3つの企画提案を行い採択されました。①旅行会社の商品造成や生活体験プログラムに助成する「来島機会創出プロジェクト」、②多言語パンフレット作成・インバウンドセミナー実施などの「観光満足度向上プロジェクト」、③クルーズ船歓迎迎せ

1 奄振リーディングプロジェクト推進枠

去る3月に29年度の本調査結果が公表されました。「しあわせ

レモニーの充実を図る「情報発信・満足度向上プロジェクト」です。なお、6月より施行された住宅宿泊事業法(民泊法)に基づく届出件数は、県生活衛生課によると審査中の案件が1件のみとのこと、低調な滑り出しとなっています。

2 地方創生幸福度アンケート調査

「生活の満足度・将来への希望度・医療福祉環境の満足度」の3項目は、これまで低い結果となりましたので、これを政策のヒントにするための調査の深掘りをしてほしいと要望しました。市民の声を、ぜひ生かしてほしいです。

調査結果では、全10項目で全体的に満足度が増している傾向がつかめました。また、「生活の満足度・将来への希望度・医療福祉環境の満足度」の3項目は、これまで低い結果とな

3 市長選・市議選の開票速報

HPでは今年4月に初めて前回の市長選・市議選の開票結果が掲載されました。情報通信産業に力を入れている奄美市としては、情報発信にもっと努めたいところ。県下19市中11市ではHPによる開票速報を行っており、世界中の人が即時に確認できる状況です。市としても様々な課題をクリアしながら取り組みたいとのこと、来年の市議選までに実現できるよう、見守っていきます。

の島」実現に向けて、総合戦略に基づいて各種施策が行われている中、住民がどれぐらい幸福度を実感しているのか、主観的指標である「奄美幸福度指数」を行う政運営に生かすことはとても重要な試みです。28年度に続く2回目の調査結果では、

市のホームページを活用して、市が主管する選挙の結果速報を行っていただきたいと要請したところ、前向きな答弁が返ってきました。市

【ミニコラム】

～ 横浜から ～

たまたま安田さんと知り合い奄美大島に興味を抱き、2月に初めて奄美を旅した。帰ってから魅力的なこの島のことを相手かまわず質問してみた。戦後アメリカ軍の統治下に置かれた事は？ソテツはなぜ山一杯

に生えているのか？そして以前旅したスリランカの「一家に3本ヤシの木」を思い出した。美しい海、黒砂糖、大島紬以外の奄美を知らないことに私は愕然とした。これから外から見た奄美大島の魅力を探り考えていきたいと思う自称奄美大島勝手連です。

3. 民生委員 制度の あり方

本年末に全国一斉改選を控える民生委員(多くの方が児

より名瀬保健所でも登録できないようになり、これまでの登録者数累計は60名、また移植を待つ患者数は県内で22名です。この取り組みを推進するため、全国437自治体で骨髄等を提供するドナーやそのドナーを雇用する事業者に対し助成金を交付する事業があり、奄美市でもこの事業の導入を提案しました。都道府県がその財源の一部を負担する制度もありますが、鹿児島県ではまだそれがなかったため、県への要望を含めて、行政とともに調査・研究して参ります。

童委員を兼務)。全国で抱い手不足が指摘されており、現在の本市の充足率は表の通りです。特に名瀬地区での後任者の確保が課題で、地区割の見直しも含めて検討中とのこと。私は委員の負担軽減と新たな担い手育成が今後のカギと捉え、先進事例の研究を提案しました。たとえば大分市では、関係する市管理職級職員の名簿を民生委員に配付し、市の支援が必要な場合に担当者が即応する体制を整えており、宮崎県美郷町では住民が見守り役となる「愛の連絡員制度」、兵庫県では民生委員一人に原則

地区名	定員	現員数	充足率(%)
名瀬	98	89	90.8
住用	15	15	100
笠利	29	29	100
合計	142	133	93.7

2名の補佐役を付ける「協力委員制度」があります。全国の様々な創意工夫を奄美市にも取り入れたいです。

食文化を中心に持続可能な地域づくりを目指す運動である「ガストロノミー」。ガストは胃袋、ノミーは学問を表し、「美食学」とも訳されますが、農学・化学・生物学・地質学・芸術・人類学・歴史学・心理学・社会学など広範な学問との関わりを視野に入れた概念です。県内では霧島市が地方創生の一環として先駆的に取り組んでおり、食と農のブランド化による付加価値の向上と、新たに設立され

4. 「ガスト ロノミー」 って何!?

た地域商社「霧島商社」が全国・世界に向けて販路開拓し、経済の好循環を生み出しつつあります。地元住民にも観光客にも訴求力があるこの運動、長い歴史を経て培われてきた豊かな食文化のある奄美こそ取り組むべきではないかと考え、霧島市から講師をお招きし、経済団体の協力も得て3月末に議員有志で研修会を開催しました。農林水産業・食品加工業・外食産業などの食文化関連産業にとつての「総合戦略」を考えるためにも、推進していきたいです。

5. 「エコロジカル・ ネットワーク」 を大島でも!

← 次ページへ

■ミニコラム～横浜から③～

伝統的工芸品大島紬に思う

新潟十日町への織物ツアーで布の奥深さに触れました。北海道平取のアイヌ博物館ではアットウシを。オヒョウやシナノキが原料の織物です。独特の泥染めの大島紬に改めて感心。日本

の優れた伝統的工芸品を守るには?我々に出来ることは?と考え「使い捨ての安物買いをやめ、品質の良い気に入った物を少しずつ買い揃えてゆく生活スタイルに変えなくては」と、たどり着きました。せっかく日本人に生まれたのです。日本は良いものにあふれています。(子)

世界自然遺産 登録への 再スタート コラム

これまで、本通信において「世界自然遺産登録は目前」と書いてきました。皆様ご案内のとおり、5月にIUCN(国際自然保護連合)が奄美・沖縄について「登録延期」を勧告し、その内容を精査した結果、環境省はUNESCO(国連教育科学文化機関)への推薦をいったん取り下げ、最短で2年後の登録を目指して再推薦する方針を示しました。行政や観光関係など旗を振ってきた方々にとっては大きな衝撃・落胆となったことでしょうが、マスコミの論調では、環境保全や観光客受け入れなどの課題解決に向けた猶予期間ができたと同向きにとらえる意見も少なくありません。

私も基本的に、悲観する必要は全

くないと考えます。というのも、今年バーレーンで開かれる第42回世界遺産委員会に推薦された世界自然遺産候補6件中、IUCNから登録の勧告が出たのは1件、情報照会3件、登録延期1件(これが奄美・沖縄)、不登録1件でした。登録勧告はフランスの「ピュイ山地とリマニユ断層の地殻変動地域」で、実は過去に2回、IUCNから不登録勧告を受けています。ことほどさように、世界自然遺産登録は狭き門で、一発で登録することは至難の業なのです。世界文化遺産登録の見通しとなった「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」も2年前、ICOMOS(国際記念物遺跡会議)の指摘により推薦を取り下げるといふ挫折を味わった上で、今回の栄光を勝ち取ったのですから、奄美・沖縄も将来必ず登録される、という希望や自信をまずはお互いにしっかりと持ちたいと思います。

その上で、「潜伏キリシタン」も含め国内に世界遺産は22件(自然遺産4件・文化遺産18件)、暫定リス

トにも文化遺産候補7件があります。来年からは各国1件のみの推薦となりますが、割合として47都道府県のうち半分に世界遺産があることになり、また世界には千を超える世界遺産が存在します。そして、保全や観光利用の観点から、世界遺産の中で勝ち組と負け組がある、というのが実態だろうと考えます。

そこで、登録を目指して諸々の施策を行いつつながら、登録後のプームを一過性に終わらせない施策も考えていかなければなりません。他の登録地域では訪日外国人(インバウンド)対応のためのスタッフを増員したり、現実世界と仮想世界を融合させた「複合現実(MR)」というテクノロジーを使って当時に疑似体験する施設をつくったりしています。この点にこそ、民間と行政とがさらに連携を深めていかなければならない理由があるのです。世界遺産はあくまでも看板、それを生かすも殺すも地元次第。このことをさらに強く訴えつつ、奄美ならではの民官連携事業を模索していきたいです。



安田そうへい プロフィール

- 昭和54(1979)年生まれ、39歳。
- 奄美小、名瀬中、鶴丸高、東京大法学部卒業。
- 東京・新橋でのサラリーマン生活を経て、公益財団法人松下政経塾に進み、「新しい政治のあり方」を追究する。
- 平成20年に名瀬に帰り、NPO法人にて青少年支援活動や環境保全・リサイクル活動を

通した島おこしに取り組む。

- 平成23年奄美市議会議員選挙に挑戦、現在2期目。
- 文教厚生委員会委員長、議会活性化検討委員会委員、大島地区消防組合議会議員。
- 家族は妻と長男5歳。

連絡先：奄美市名瀬小俣町 29-32
 携帯電話：090-3546-7031
 ※留守電の時はご用件を入れてください。
 Eメール：sohei@mskj.or.jp